

那須与一伝承館通信〈第3回〉

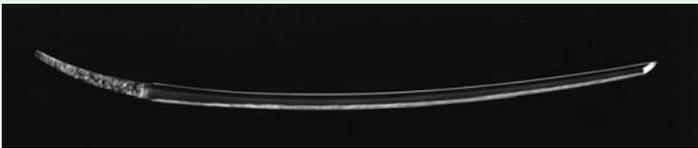
○那須与一が用いた太刀

那須与一伝承館が収蔵する資料の中心となっているのが、那須与一を生み出した那須家に伝わった資料群です。残念ながら、与一に直接関わる資料というのは、実はそれほど多くありません。

ただ、そのいずれもが大変貴重なものです。その中から今回は与一が用いたとされる太刀をご紹介します。

太刀銘成高

この太刀は、元暦2年(1185)の屋島合戦において与一が扇の的を射た際、身につけていたとされるもので、那須家の宝物の中でも特に重視されてきたものです。作者である成高は、平安末期から鎌倉初期にかけて活躍した古備前派の刀工ですが、その作品は現在ほとんど残っておらず、そういった点でも貴重な資料です。



写真からもわかるように、大変細身で反りが強いという、すぐれた古備前の特徴をよく備えており、国の重要文化財にも指定されている逸品です。

綾包太刀拵
さてこの太刀銘「成高」には、拵が拵とは刀剣の外装のことで、柄・鐔・鞘など、刀身を覆う部品を総称したものです。黒漆塗りの鞘が緑色の綾で包まれているため、「綾包太刀拵」の名で呼ばれています。

この拵は現在では、鐔が失われ、綾の大部分が剥落するなど、かなり傷みのある状態ですが、この拵もまた、中身の太刀に劣らず貴重なものなのです。

これは中身の太刀と同じ時期、つまり800年以上前に作られたものですが、これほど古い時期の拵というのは、日本全体でみても実はほとんど残っていないのです。

その希少性ゆえ、中身の太刀銘「成高」と同様に、この「綾包太刀拵」も国の重要文化財に指定されています。

■問い合わせ
那須与一伝承館
TEL (20) 0220

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 ⑦

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

ふれあいの丘には、子どもたちがのびのびと遊べる広々とした芝生広場があり、その周縁にはたくさんの彫刻が設置されています。この作品は、広場の東端に並んでいるものの1つで、一番南から数えて3番目のものです。

作者は子どもたちのころに遊んだ「杜(もり)」



杜のフォルム(記憶の杜)

ひはら とうだい
日原 公大 (大田原市) 1997年

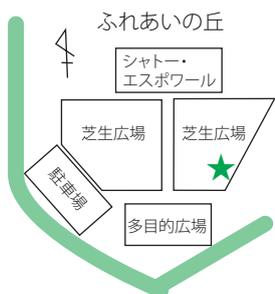


日原 公大 氏

をイメージしてつくったといえます。その杜は、町並みから少し外れたところにあって、「いつでも緊張と冒険の世界」を与えてくれて、「その中で自然の不思議さ大切さを学び、友だちや動植物に友情と愛情を育」んだといえます。作者の記憶を形に表したこの「杜」は、現代の子どもたちにどんな世界として見えてくるのでしょうか。

作者は日原公大氏。本市彫刻シンポジウムの開始当初からオルガナイザーとしてイベントを主導しています。ほかに、那須野が原ハーモニーホールや街かど美術館の運営委員なども務め、本市の文化芸術の振興にご尽力いただいています。道の駅那須与一の郷に設置されている「与一」像も日原氏の作品です。

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718